

令和4年度 全国高等学校定時制バスケットボール大会神奈川予選

# 最後まで全カ プレー

優勝候補筆頭相手にねばり強く挑み続けた...

5月22日(日)、秀英高校で神奈川県予選2回戦が行われた。相手は神奈川県立横浜明明高校。この試合に勝てば橘定バス部初のベスト4進出となる。是が非でも勝ちたい一戦。しかし、横浜明明は前回大会の優勝校であり、今大会も優勝候補の筆頭。難しい試合になると覚悟のもと選手たちは試合に臨み、最後まで全カプレーを見せた。



ディフェンス面で  
成長を見せた  
二回戦の戦い

橘高校 37-71 横浜明明高校

# 夕チスポ

橘高等学校定時制  
運動部通信  
2022.6.1  
第106号

勢いのある攻撃に食らいつ

**第1クォーター**

第1クォーターが始まると横浜明明に先制をゆるすが、吉田響(2年)の得点ですぐさま追いつく。その後、石村光太郎(3年)の得点などで相手の勢いのある攻撃に食らいつく。しかし、じわじわと点差がひらき、第1クォーターを6-12で終える。

一進一退の攻防で射程圏内

**第2クォーター**

第2クォーターは一進一退の攻防が続く。相手に得点を入れられても、吉田響、石村光太郎、土屋優(4年)、ジョンカルロ(3年)、牧田風世(2年)がそれぞれ得点を決め、相手に主導権を渡さない。第2クォーターが終わってみれば20-27とまだ射程圏内にいる戦い方ができていた。

厳しい展開が続く

**第3クォーター**

第3クォーターから相手の勢いが増し、連続で得点を決められる厳しい展開が続く。エースの石村光太郎に対しては厳しいマークが付けられ、思うようにプレーをすることができなくなっていた。そんな中でも、キャプテンの土屋優を中心に相手ゴールへ迫ったが、第3クォーターを終えると27-48と差を広げられていた。

最後まで集中力を持って戦う

**第4クォーター**

第4クォーターも相手の勢いは止まらず、厳しい展開が続く。橘の選手も最後まで声をかけ合い全力のプレーを見せるが、最終的に37-71で敗れた。しかし、一回戦で課題となっていたディフェンスは、見違えるほどよくなっていた。選手が自分たちで課題を見つけ、それを解決するために二回戦に向けて一生懸命練習をした成果が出たのだと思う。

チーム練習を始めた当初は連携もうまくいかず、なかなかいいゲームができない時期もあった。しかし、毎日コツコツと練習を繰り返して、徐々に成長していった。次の戦いとなる12月の市大会に向け、基礎から徹底的にレベルアップを図り、雪辱を果たしたい。

(バスケットボール部顧問 藤生昇)



ディフェンス面で特に成長著しい  
ジョンカルロ(3年)

キャプテンとして最後まで  
チームを鼓舞し続けた  
土屋優(4年)

練習の成果を発揮できたが惜敗...  
次の大会に向けて 基礎から  
徹底的にレベルアップを図り  
必ず雪辱を果たしたい...